様式１

倫理審査申請書

2023 年　4 月　13 日提出
年受付番号 21-230414

熊本リハビリテーション病院
倫理委員会委員長　様

代表申請者
所属：リハビリテーション部
職名：理学療法士
氏名：葛原　碧海　印

所属長の印　河野清貴　印

下記の研究について倫理審査を申請します。

研究課題名
高齢低体重の回復期脳卒中患者における起立着席運動は退院時の日常生活動作に影響する

共同研究者名	所属	職名
吉村　芳弘	リハビリテーション科	サルコペニア・低栄養研究センター センター長
嶋津　さゆり	栄養管理科	栄養管理科長、サルコペニア・低栄養研究センター 副センター長
白石　愛	歯科診療室	歯科衛生士
長野　文彦	リハビリテーション部	理学療法士
備瀬　隆広	リハビリテーション部	理学療法士
濱田　雄仁	リハビリテーション部	言語聴覚士
木戸　善文	リハビリテーション部	作業療法士
松本　彩加	薬剤部	薬剤師
米田　巧基	栄養管理科	管理栄養士
砂原　貴子	看護部	看護師
計　10　名		

概要（具体的に記載すること）

① 審査対象（いずれかに○を）１．研究計画書　(2) 学会発表原稿　(3) 出版原稿　４．その他（　　）

② 研究の背景と目的

脳卒中患者において起立着席運動（起立 Ex）は身体機能や予後に好影響を及ぼすことが報告されているが、高齢低体重における知見は少ない。本研究の目的は、高齢低体重の脳卒中患者への起立 Ex が退院時の日常生活動作に及ぼす効果について検証することである。

③ 対象及び方法

研究デザインは、2015-2021年に当院回復期病棟に連続入院した脳卒中患者の70歳以上かつBMI20未満を対象とした後ろ向きコホートである。入院中1日あたりに実施した起立Ex回数を調査し、起立Ex回数の中央値をカットオフ値として対象を2群に分類した。アウトカムは退院時の日常生活自立度（FIM）運動項目、FIM運動項目の入退院時利得とした。交絡因子を調整した多重回帰分析を用いて、起立Exとアウトカムとの関連について解析した。

④ 実施場所及び実施機関

熊本リハビリテーション病院　回復期病棟

⑤ データ収集期間

2015年　1月　～　2021年　12月予定　データベースを用いた後ろ向きコホート研究

⑥研究における倫理的配慮について（Ⅰ～Ⅲは必ず記載のこと）

Ⅰ　研究等の対象とする個人の人権擁護　（　問題なし　）

Ⅱ　研究等の対象とする者に理解を求め同意を得る方法　（　病院HPへの研究計画掲示　オプトアウト　）

Ⅲ　研究等によって生ずる個人への不利益並びに危険性　（　なし　）

Ⅳ　研究等によって生ずる医学上の貢献の予測　（　あり　）

Ⅴ　その他　（　　）